

貯 法：室温保存
使用期限：外箱に表示

处方せん医薬品^注

徐放性前立腺肥大症治療剤

承認番号	22500AMX01259000
薬価収載	2013年12月
販売開始	1997年7月

**クロルマジノン酢酸エステル徐放錠50mg「KN」

CHLORMADINONE ACETATE SR Tablets 50mg「KN」
クロルマジノン酢酸エステル徐放錠

注)注意－医師等の処方せんにより使用すること

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

重篤な肝障害・肝疾患のある患者[代謝能が低下しており肝臓への負担が増加するため、症状が増悪することがある。]

【組成・性状】

品名	クロルマジノン酢酸エステル徐放錠 50mg「KN」
成分・含量	1錠中、日局クロルマジノン酢酸エステル50mg含有
添加物	メタケイ酸アルミン酸マグネシウム、メタクリル酸コポリマーS、低置換度ヒドロキシプロピルセルロース、カルメロースカルシウム、ステアリン酸マグネシウム、ヒプロメロース、マクロゴール1500、メタクリル酸コポリマーLD、ラウリル硫酸ナトリウム、タルク、酸化チタン、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリソルベート80、黄色三二酸化鉄
性状	微黄色の徐放性フィルムコート錠
大きさ	直径：約9.8mm 厚さ：約4.3mm 重量：約280mg
外形	  
識別コード	KN247

【効能・効果】

前立腺肥大症

【用法・用量】

通常、成人にはクロルマジノン酢酸エステルとして1回50mg(1錠)を1日1回食後経口投与する。

【使用上の注意】

1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること)

- (1)心疾患、腎疾患又はその既往歴のある患者[ナトリウムや体液の貯留により、これらの症状が増悪することがある。]
(2)糖尿病患者[耐糖能の低下があらわることがある。]

2. 重要な基本的注意

- (1)劇症肝炎等の重篤な肝機能障害による死亡例が報告されているので、投与開始後3カ月までは少なくとも1カ月に1回、それ以後も定期的に肝機能検査を行うこと。
(2)本剤による前立腺肥大症に対する治療は、根治療法ではないことに留意し、本剤投与により期待する効果が得られない場合には、手術療法等他の適切な処置を考慮すること。
(3)投与期間は16週間を基準とし、期待する効果が得られない場合には、以後漫然と投与を継続しないこと。
(4)ポテンツ低下等があらわれた場合、治療上の有益性を考慮の上、必要に応じ休薬又は他の療法への変更を行うこと。

3. 副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

(1)重大な副作用(頻度不明)

- 1)うつ血性心不全：うつ血性心不全があらわることがあるので、このような場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

2)血栓症：血栓症(脳、心、肺、四肢等)があらわることがあるので、異常が認められた場合には投与を中止し適切な処置を行うこと。

3)劇症肝炎、肝機能障害、黄疸：本剤投与1～2カ月後に劇症肝炎、肝機能障害、黄疸があらわれ、死亡に至った症例が報告されているので、投与開始後3カ月間は少なくとも1カ月に1回、それ以後も定期的に肝機能検査を行い、恶心・嘔吐、食欲不振、全身倦怠感等の異常が認められた場合には直ちに投与を中止し適切な処置を行うこと。

4)糖尿病、糖尿病の悪化、高血糖：糖尿病、糖尿病の悪化あるいは高血糖があらわることがあり、昏睡、ケトアシドーシスを伴う重篤な症例も報告されているので、血糖値や尿糖に注意するなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

(2)その他の副作用

頻度不明	
生殖器	インポテンス、性欲低下等
過敏症 ^{注1)}	瘙痒、発疹等
肝臓 ^{注2)}	肝機能異常等
腎臓 ^{注3)}	BUN、クレアチニンの上昇等
電解質代謝 ^{注4)}	体重増加、浮腫等
循環器 ^{注5)}	動悸、息切れ、心悸亢進、胸内苦悶等
血液	貧血
消化器	食欲不振、胃部不快感、口渴、恶心、嘔吐、便秘、下痢、腹痛等
精神神経系	頭痛、眠気等
泌尿器	頻尿、尿道不快感、下腹部痛等
脂質代謝	中性脂肪の上昇
内分泌	女性型乳房、血中FSH、LH、テストステロン値の低下、プロラクチン値の上昇
皮膚	脱毛
その他	微熱、倦怠感、発汗、肥満

注1)発現した場合には投与を中止すること。

注2)肝機能検査値に注意するなど観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

注3)発現した場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

注4)観察を十分に行い、発現した場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

4. 高齢者への投与

高齢者への投与の際には投与間隔に留意するなど慎重に投与すること。[一般に高齢者では生理機能が低下していることが多いため、血中濃度が持続するおそれがある。]

5. 適用上の注意

薬剤交付時：PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。[PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔を起こして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することが報告されている。]

6. その他の注意

ラット、ウサギ及びイヌにおいて精子形成異常が認められるという報告がある。
また、副腎皮質はラット及びイヌでは萎縮するという報告があるが、モルモットでは萎縮しないという報告がある。

【薬物動態】

<生物学的同等性試験>

クロルマジノン酢酸エステル徐放錠50mg「KN」と標準製剤を、クロスオーバー法によりそれぞれ1錠(クロルマジノン酢酸エステル50mg)健康成人男子に絶食及び摂食後単回経口投与して血清中未変化体濃度を測定し、得られた薬物動態パラメータ(AUC、Cmax)について統計解析を行った結果、両剤の生物学的同等性が確認された(図1、図2、表)。¹⁾

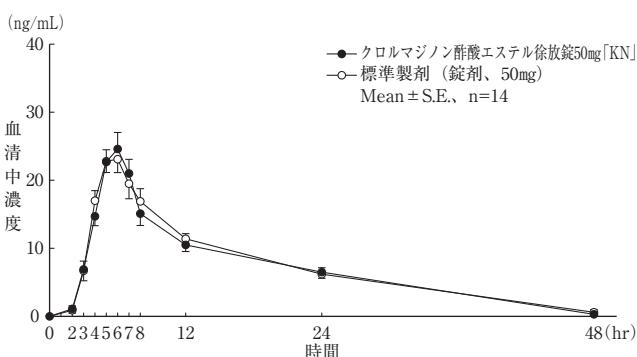


図1 クロルマジノン酢酸エステルの血清中濃度推移(絶食時)

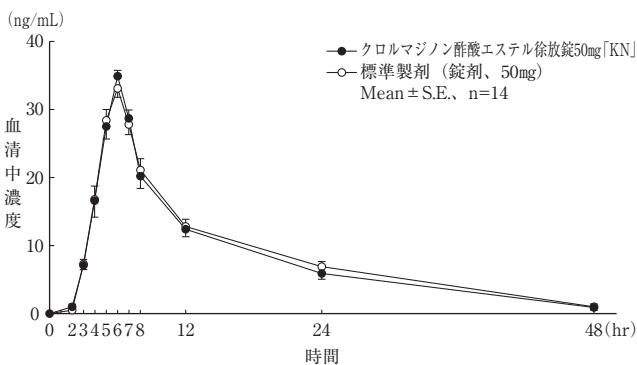


図2 クロルマジノン酢酸エステルの血清中濃度推移(摂食時)

表 薬物動態パラメータ

		判定パラメータ		参考パラメータ	
		AUC _{0→48hr} (ng·hr/mL)	C _{max} (ng/mL)	T _{max} (hr)	T _{1/2} (hr)
絶食時	クロルマジノン酢酸エステル 徐放錠50mg「KN」	334.5±24.7	27.3±1.7	5.4±0.2	10.3±0.6
	標準製剤 (錠剤、50mg)	342.9±19.2	26.3±1.6	5.4±0.2	11.6±1.3
摂食時	クロルマジノン酢酸エステル 徐放錠50mg「KN」	382.7±27.2	35.2±0.9	5.9±0.1	8.4±1.1
	標準製剤 (錠剤、50mg)	404.5±27.4	34.5±1.1	5.6±0.1	9.4±0.8

(Mean ± S.E., n=14)

血清中濃度並びにAUC、Cmax等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

【薬効薬理】

黄体ホルモン作用を現す。Miyake-Pincus法によってその効力を比較すると、皮下注射ではプロゲステロンの32.4倍、経口投与ではノルエチンドロンの38.5倍の効力を示した。また卵巣摘出ラットに対しては、経口投与によりプロゲステロンの皮下投与と同等の妊娠維持作用を示した。ただし、胎仔男性化作用、男性ホルモン作用、たん白同化作用、下垂体ゴナドトロピン抑制作用、ACTH抑制作用、卵胞ホルモン作用は認められない。²⁾

【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：クロルマジノン酢酸エステル(Chlormadinone Acetate)

化学名：6-Chloro-3, 20-dioxopregna-4, 6-dien-17-yl acetate

分子式：C₂₃H₂₉ClO₄

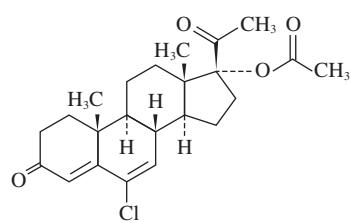
分子量：404.93

性状：白色～淡黄色の結晶又は結晶性の粉末で、においはない。

クロロホルムに溶けやすく、アセトニトリルにやや溶けやすく、エタノール(95)又はジエチルエーテルに溶けにくく、水にはほとんど溶けない。

融点：211～215°C

構造式：



【取扱い上の注意】

*<安定性試験>

最終包装製品を用いた長期保存試験(室温、3年間)の結果、クロルマジノン酢酸エステル徐放錠50mg「KN」は通常の市場流通下において3年間安定であることが確認された。³⁾

【包装】

PTP：100錠 500錠

【主要文献】

1) 小林化工株式会社・社内資料(生物学的同等性試験)

2) 第十五改正日本薬局方解説書

3) 小林化工株式会社・社内資料(安定性試験)

【文献請求先】

主要文献欄に記載の文献・社内資料は下記にご請求下さい。

小林化工株式会社 安全管理部

〒919-0603 福井県あわら市矢地5-15

TEL 0776-73-0911 FAX 0776-73-0821

製造販売元
小林化工株式会社
福井県あわら市矢地5-15